

※詩のエピソードにより、次の2点を参加者に受けとめさせたい。

- ①子どもがどのような状況にあっても、共に寄り添い生きていく、親の深い愛情
- ②子どもをそばで支えたいが、将来を考えその役割を社会に託すという決断をする親としての苦しさ

◇紹介するエピソード

・作者(石井恵子さん)の言葉(詩画集p.46より)

知的障害を持った子を授かってからの二十数年は、不安の中で、この子のためにどうしてやるべきかと、自問自答しながらの子育てでした。でも、そんな中での貴重な出会いや体験が、私自身の世界を、少し広げてくれたような気がします。あの子の手を引いて歩いてきたつもりが、逆にあの子に手を引かれ、育てられてきたのかもしれない。

・作品の背景

作者である石井恵子さんの次男は、知的障害をもって生まれました。希望と葛藤の中で懸命に子育てをしてきましたが、次男が二十歳になる頃、石井さんは乳癌を発症します。闘病の日々のなかで、石井さんは次男の障害者更生施設(幸の実園)への入所を決めました。この詩には、「社会にわが子の人生を託す」という道を選びながらも、なお変わらない親としての深い思いが綴られています。(施設への入所後、数年ののちに、石井さんは亡くなりました)

◇その他

「詩画集 あなたのお母さんでよかった」は、茨城県にある知的障害者更生施設「幸の実園」が編集しました。利用者の方々による絵と、石井恵子さんによる詩で構成されています。

新たな視点に関して(資料2)

「子どもをもつことを望みながら叶わない(不妊治療をする等)」という状況もあることを、新たな視点として、ファシリテーターが選んだ本や新聞記事等からの紹介という形で参加者に伝える。

◇参考となる資料等

- ・『やっぱり子どもがほしい!産婦人科医の不妊治療体験記』(田口早桐/集英社インターナショナル/2006)
- ・『不妊体験 38人の心の軌跡』(マタニティ編集部編/婦人生活社/2002)
- ・『授かった、あきらめた、乗り越えた私の不妊体験』(主婦の友編集部編/主婦の友社/1999)
- ・『コウノトリふわり』(山陽新聞社/山陽新聞社出版部/1999) など

◇資料紹介の例

ここまで、「子どもができたら?」という前提で、ワークを進めてきました。でも、社会には、子どもを持つことを望みながら、なかなかそれが叶わない人もいます。ここで少し視点を変えて、「もし子どもができなかったら・・・」という状況について一緒に考えてみたいと思います。
(ファシリテーターが選んだ資料から体験談などを紹介)
このような思いを抱えた人もいる中で、現在の社会の考え方、そして私たちの考え方は、どうでしょうか。

参考文献

- 『あなたのお母さんでよかった』
(詩:石井恵子、画:幸の実園利用者、編:幸の実園/愛信会/2004)
『子育て支援者のための発達障害入門-“気になる子”とその家族のサポートをめざして』
(発達障害の子どもへの理解と支援のための普及事業 事業委員会/家庭保健生活指導センター/2008)